



大熊・双葉環境まちづくりミーティングへの期待

2020年7月
環境省





◎ 中間貯蔵施設

貯蔵される土壌 : 1400万m³ → 東京ドーム 約11杯分

敷 地 : 1600ha → 東京の千代田区や渋谷区の面積以上（既に約70%を国が取得）

両町にまたがる巨大な敷地

大熊町 : 町の全面積の約14%、可住地面積の約38%

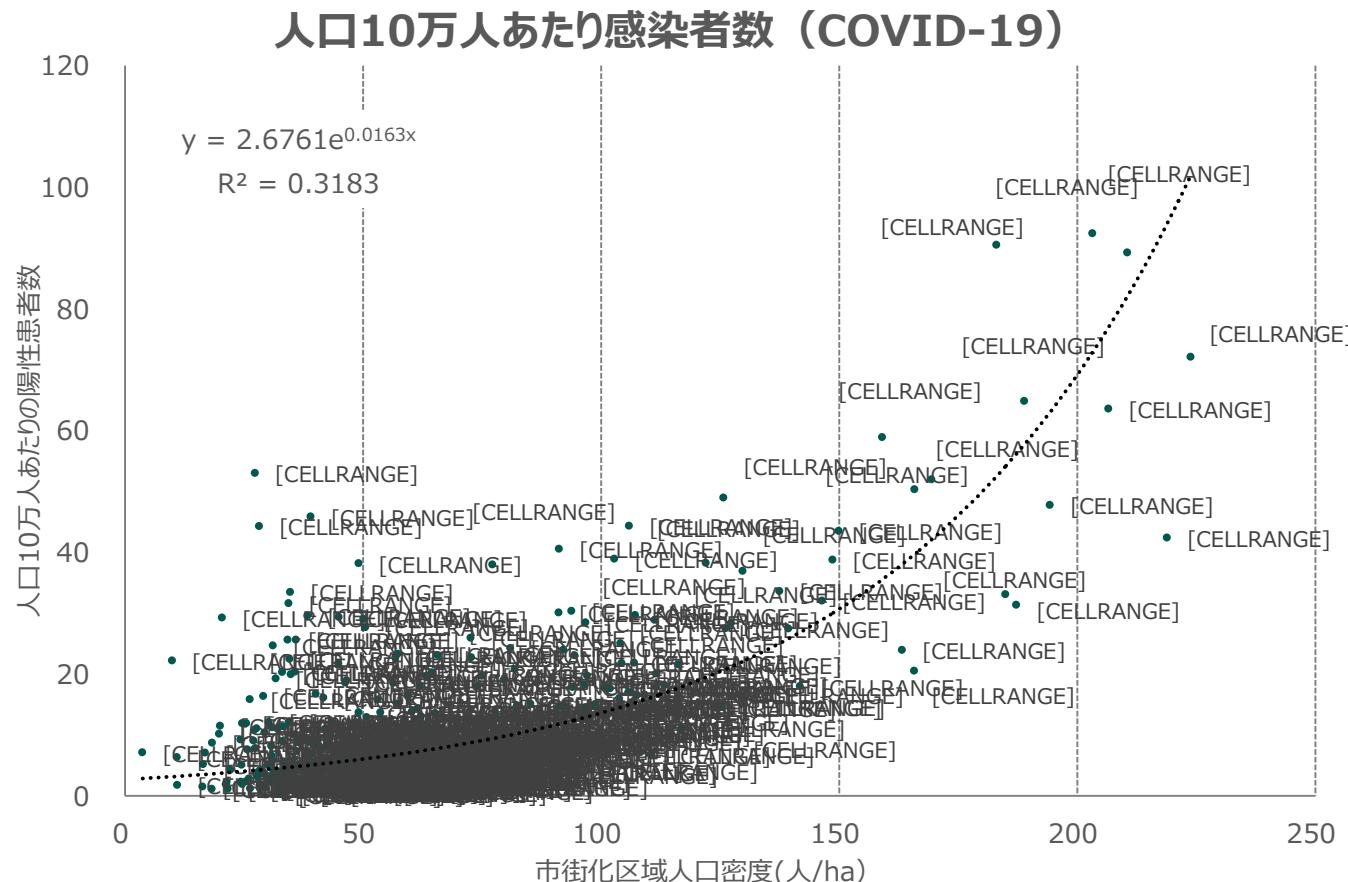
かつて敷地内に約3000人が居住

双葉町 : 町の全面積の約10%、可住地面積の約23%

かつて敷地内に約1000人が居住

COVID-19の人口の集中度と感染者（人口10万人あたり）

■人口密度が10,000人/km²以上の大都市部（東京・大阪周辺）の感染率が指数関数的に高い。大都市への一極集中のリスクが顕在化している。



(出所) 各都道府県の公開する市区町村別のCOVID-19陽性患者数（令和2年7月2日時点の累計患者者数）、都市計画年報（H27）より作成。

(注) 都心5区については昼間人口あたりの陽性患者者数、これ以外については夜間人口あたりの陽性患者者数である。

■気候危機時代の一極集中のは是正

持続可能でレジリエンスな分散型国土・地域づくりの原動力は、

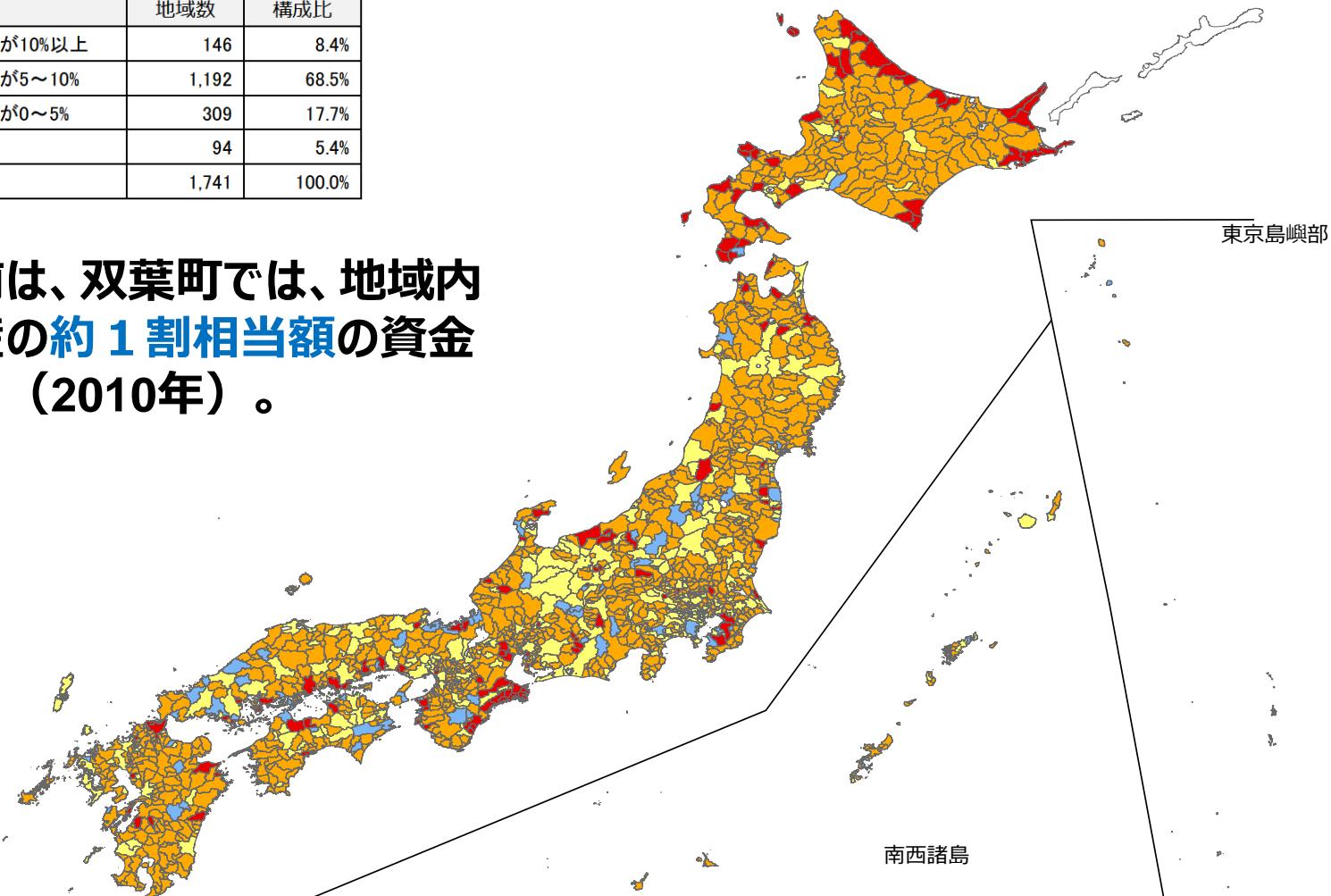
デジタル × 脱炭素

市町村別のエネルギー代金の収支

- 全国1,700市町村におけるエネルギー代金の収支をみると、7割の自治体が**地域内総生産の5%相当額以上の資金が地域外に流出**している（2013年）。

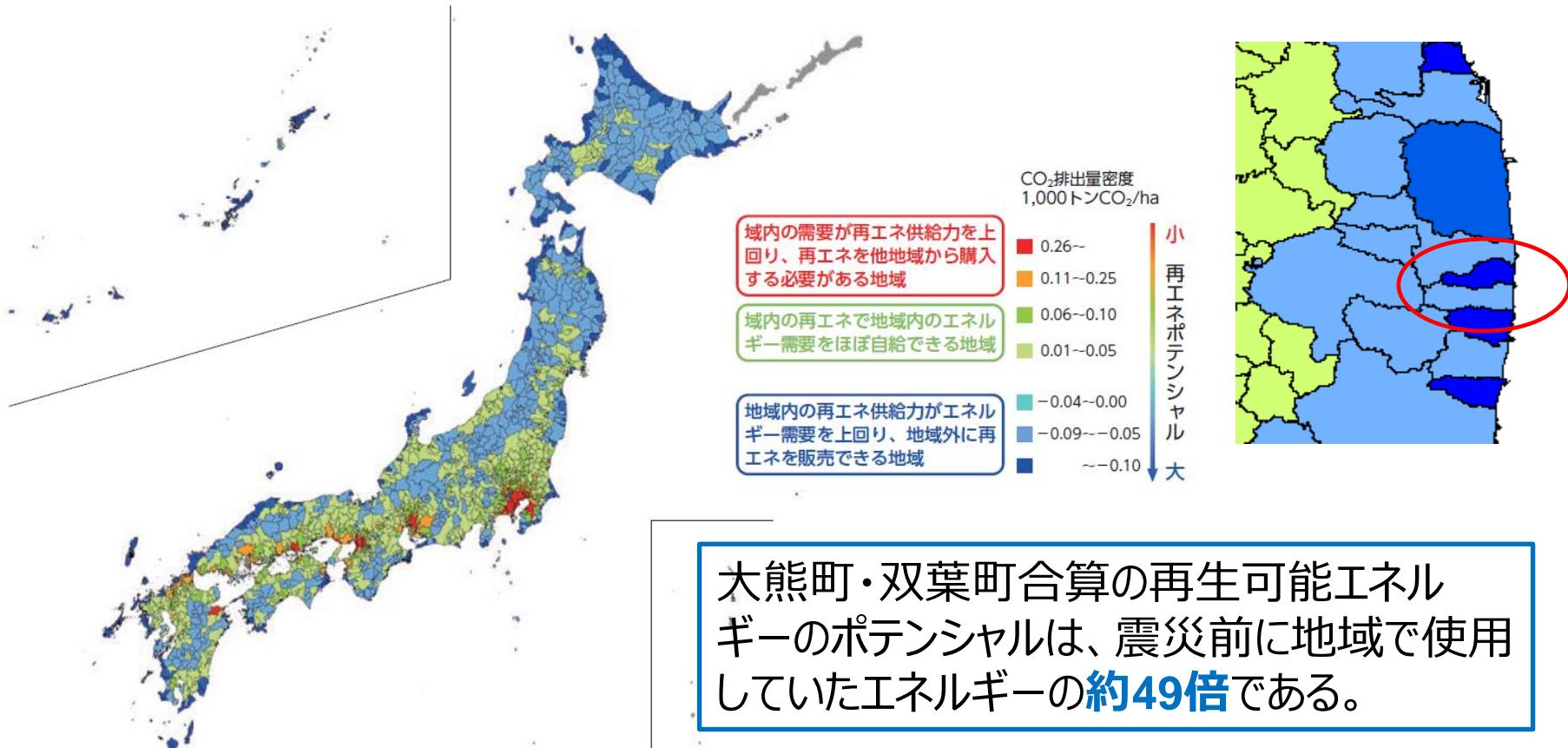
| | | 地域数 | 構成比 |
|-----------|-------|--------|-----|
| 赤字額が10%以上 | 146 | 8.4% | |
| 赤字額が5～10% | 1,192 | 68.5% | |
| 赤字額が0～5% | 309 | 17.7% | |
| 黒字 | 94 | 5.4% | |
| 合計 | 1,741 | 100.0% | |

震災前は、双葉町では、**地域内総生産の約1割相当額の資金**が流出（2010年）。



全国1,700市町村の再生可能エネルギー導入ポテンシャル

○多くの地域で、エネルギーの**地産地消**、それを超えた地域外供給が可能。



注：市町村単位の電力エネルギー（太陽光（住宅用、公共系等）、陸上風力、中小水力（河川部）、地熱発電）導入ポテンシャル（設備容量）から年間電力発電量を求めてCO₂換算。市町村単位の熱エネルギー（太陽熱、地中熱）導入ポテンシャルは熱量ベースをCO₂換算。海上風力については、海上の風速計測地点から最寄りの市町村（海岸線を有する）に対して送電することを仮定して、各市町村の風速帯別の導入ポテンシャル（設備容量）から年間電力発電量を求めてCO₂換算。市町村のCO₂排出量から差し引いて図面を作成。CO₂換算に当たり、電力エネルギーは各地域の電力事業者の電力CO₂排出係数（トンCO₂/kWh）、熱エネルギーは原油のCO₂排出係数（トンC/GJ）を用いてCO₂換算。

資料：環境省